

1 題材名 「いっしゅんの形から」

2 題材の目標

- 布がつくだす形の変化を試して、液体粘土で固めた形から想像を広げることを楽しもうとする。  
(造形への関心・意欲・態度)
- 固まった形をいろいろな高さや方向、角度から見て、つくりたいものを見付けることができる。  
(発想や構想の能力)
- 見る人にも伝わるように、作品を固定する角度や色、置く場所を考え工夫することができる。  
(創造的な技能)
- 友達の作品から、見立ての面白さや見せ方の工夫を感じ取ることができる。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 題材観

本題材は、第5学年及び第6学年の内容A表現(1)イ「絵や立体、工作に表す活動を通して、感じたこと、想像したこと、見たこと、伝え合いたいことから、表したいことを見付けることや、形や色、材料の特徴、構成の美しさなどの感じ、用途などを考えながら、どのように主題を表すかについて考えること。」に対応した題材である。具体的な活動としては、タオルなどの布に液体粘土をしみこませて、その布をつるしたり容器等に被せたりひねったりした状態で乾かして固める。固まった布の形を様々な角度から見たり触ったり、展示場所との組合せを考えたりして何かに見立てる。そして、色を塗ったり土台に付けたりして見る人に伝わるように表現する。抽象的な形の美しさや面白さを捉えて、発想や構想を広げながら楽しく学習できる題材である。

(2) 児童の実態

本学級の児童は図画工作科の授業に意欲的に取り組んでおり、造形活動に対して関心が高いことが分かる。図画工作科における発想や構想に関する意識調査から、半数の児童はつくりたいイメージが思いつくものの、なかなか思いつかない児童も半数いた。思いつかないときは、すぐに友人や教師、参考作品等に頼る傾向がある。また、「生活の中で、あるものを『○○みたい』と別のものにみることがありますか。」という問いに対しては、形や色、模様などから何か別のものに見立てて生活しているという意識が曖昧な児童もいることが分かった。

(3) 指導観

児童の実態を踏まえ、本題材では、じっくりと形と向き合い友人とも意見交流をすることで、発想により広がりをもたせられるような場を設定する。布を液体粘土で固める活動は、第4学年で経験しているが、今回は、形をつくる際に意図した形をつくるのではなく、偶然できた形から美しさや面白さを見付け、発想を広げていく活動であることを意識できるようにする。更に、意図した形と偶然からできる形の違いを知り、意欲を高めたい。また、布を固める前に、試しながら形を考える時間も設けたり、タオルをつるすなど様々な工夫ができる場を設けたりすることで、多様な形づくりができるような学習過程にする。そして、固まった布の形を様々な角度から見たり触ったりして、何かに見立てる際に、自分のイメージをもつだけでなく、友人と見せ合ったり話し合ったりすることで、想像力を広げられるようにする。また、イメージが見る人にも伝わるように、置き方や置く場所などの展示の仕方についても構想できるようにする。展示についても最終的なイメージがもてるよう、題材との出会いの場面で立体作品の野外展示や屋内展示の資料を示しておく。

4 指導と評価の計画（5時間扱い）

次	時	学習活動	評価の観点				評価規準（評価方法）	
			関	発	技	鑑		
1	1 ・ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>1つの形についてみんなで見立ててみる。</li> <li>液体粘土の性質について知る。</li> <li>どのような方法で形をつくることができるのか考える。</li> <li>立体作品の野外展示や屋内展示の資料を見て最終的な展示のイメージをもつ。</li> <li>試しながら液体粘土をしみこませた布で形をつくる。</li> </ul>	○	○			<ul style="list-style-type: none"> <li>液体粘土の面白さに気づき、意欲をもって計画を考えている。（観察）</li> <li>材料の特質を考えて布の作り出す形の変化を試し、布のつくり方や被せ方の工夫をしている。（観察）</li> </ul>	
2	3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>固まった形を見立てる。</li> <li>感じたことや気が付いたことについて友達と意見交流する。</li> </ul>	○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>固まった形をいろいろな高さや方向、角度から見て、発想や構想を広げたり、立体に表す面白さに気付いたりしている。（観察・ワークシート）</li> </ul>	
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージが伝わるように着色する。</li> </ul>	○		○		<ul style="list-style-type: none"> <li>形を見立てる面白さや想像を広げることを楽しみながら、自分の思いをもって意欲的に表している。（観察・作品）</li> </ul>	
3	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を土台に付ける。</li> <li>作品のよさが見る人に伝わるように展示をする。</li> <li>友だちの作品の鑑賞をする。</li> <li>題材の振り返りをする。</li> </ul>				○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のイメージに合わせ、色や置く場所を考え工夫して表している。（観察・作品）</li> <li>友だちや自分の作品についての、形や色、表し方のよさを味わっている。（発表・ワークシート）</li> </ul>

5 本時の指導

(1) 目標

固まった形をいろいろな高さや方向、角度から見て、発想や構想を広げる面白さに気付くことができる。

(2) 準備・資料

固まった布、ワークシート、絵の具

(3) 展開

学習内容・活動	指導上の留意点 ◎評価
<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <div data-bbox="272 293 836 387" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>形を何かに見立てるにはどのようにしたらよいだろう。</p></div> <p>2 固まった布の形をよく見たり触ったりして見立て、自分のイメージをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・飛んでいる鳥みたい。</li><li>・漂っているクラゲみたい。</li><li>・獲物を狙うサメみたい。</li><li>・連なる山々みたい。</li><li>・風に飛ばされているように見える。</li><li>・壁にぶつかってつぶれているように見える。</li><li>・水面に落ちた水玉のように見える。</li></ul> <p>3 友達がつくった形を見立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・机を円形の形態にして作品を机に置き、ワークシートをもって隣へ移動して、「○○みたい」「～～ように見える」などと感じたことや気付いたことを簡単にメモする。書けたら順次空いているところへ移動して全員分の形について書く。</li></ul> <p>4 友達がつくった形について感じたことや気付いたことを発表し、意見交換をする。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・逆さにすると、コウモリにみえるよ。</li><li>・傾けてみると、落下する隕石みたいだね。</li><li>・この角度から見ると波みたいだよ。</li></ul> <p>5 本時をまとめ、振り返り、次時の活動を知る。</p> <div data-bbox="280 1727 847 1861" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>形をいろいろな角度から見たり触れたりすることで、多様な形に見立てることができる。</p></div>	<ul style="list-style-type: none"><li>・本時は、液体粘土で固めて偶然できた抽象的な形を何かに見立てることや、自分のテーマを見つけて色を塗り、作品化していくことを伝える。</li><li>・様々な角度から見たり、手や体全体を使って様々な持ち方や触り方をしたりすることで、立体の特質を生かした形の捉え方ができるように助言する。</li><li>・「○○(何)が～～(どうなって)いる」や「～～している○○」など、ストーリー性をもった見立てをすると発想に広がりをもてることを伝える。</li><li>・自分の形を見立てることや友達の形を見立ててメモすることが難しい児童には、具体物のほか、風や水、重力など自然条件によって見えてくるような見立てもできることを提案する。また、隣の友だちにアドバイスを求めてもよいことを伝える。</li><li>・一人の形に対して全員から感じたことを簡単に一言ずつ伝える時間を設けることで、作者だけでなく友達同士でも多様な見方に気付けるようにする。作者は意見を言った人に対して疑問点を質問することも可能とすることで納得して新たなイメージづくりに役立てられるようにする。</li></ul> <p>◎見立てる面白さや想像を広げることを楽しみながら、自分のテーマを見つけて意欲的に表している。 (観察・作品)</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本時の取組のよかったところを称賛し、学んだことを次時の活動に生かしていくように伝える。</li></ul>